

[2] 区域

区域設定の考え方

歴史的なまちとして形成されてきた打吹地区と、鉄道駅等の交通利便性を生かし発展してきた駅周辺地区と、両地区をつなぐ地域であるパークスクエア・バス通り沿線地域において、商業的機能のほか多様な都市機能が集積され、また公共交通機関である路線バスが数多く運行している範囲約 196ha の区域を中心市街地活性化基本計画における中心市街地区域として設定する。

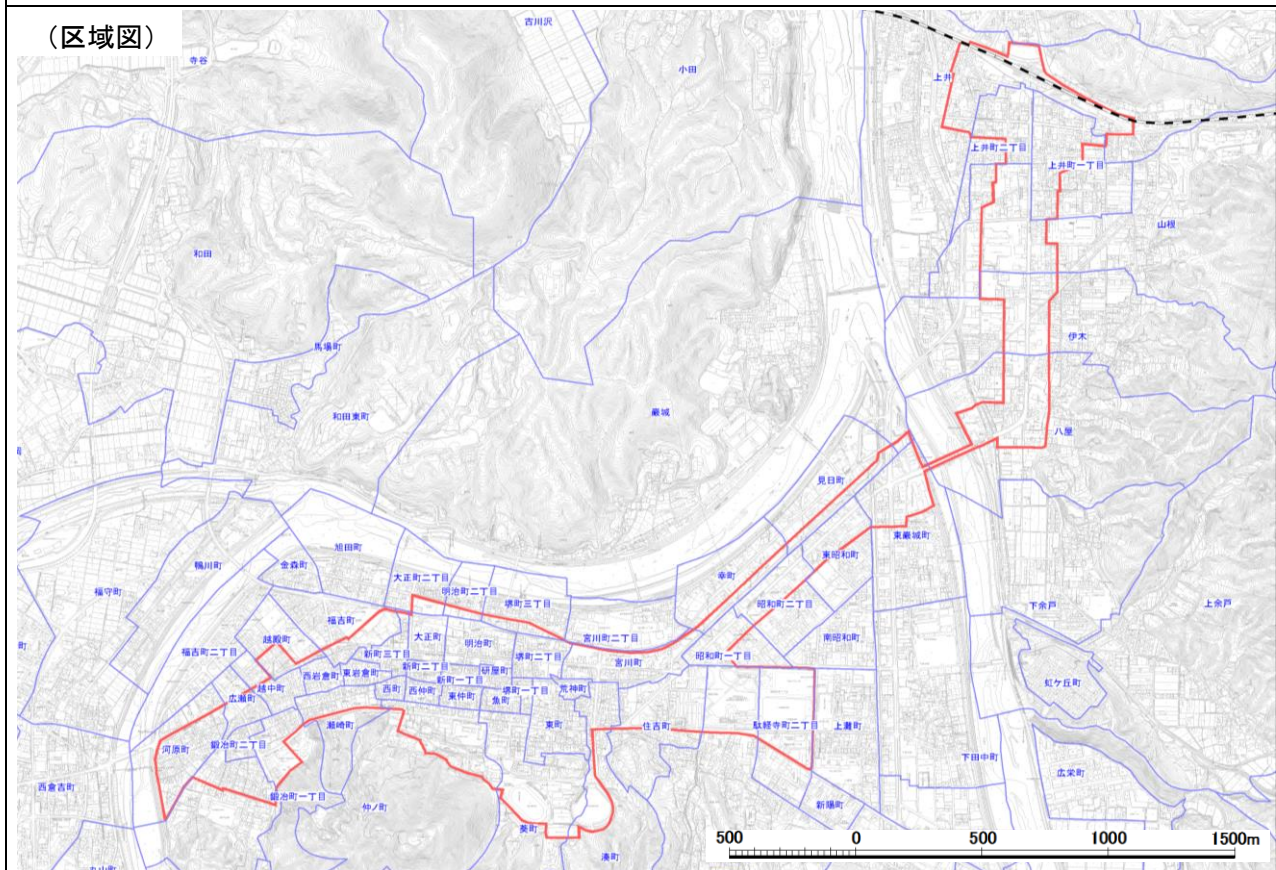
駅周辺地区は、JR 倉吉駅が鉄道・長距離バス、路線バス等の交通の拠点として機能しているほか、病院や大規模商業施設の立地、「宿泊・飲食サービス業」「情報通信業」「金融業」「医療複合サービス業」の事業所が多く集積するなど、市民の生活を支える機能が集積しており、近隣には鳥取短期大学、鳥取看護大学が立地し、鳥取県中部地域の中心都市・倉吉の広域的な玄関口としての役割を果たしている。

一方、打吹地区は、倉吉の歴史的な中心として、市役所等の行政施設、博物館や公園などの都市福利施設の立地、「卸売・小売業」や「生活関連サービス業」の事務所が多く集積するほか、白壁土蔵群（伝統的建造物群保存地区）を中心とした歴史的な街並みが本市の観光の中心的な拠点としての役割を果たしている。

また、両地区をつなぐ地域であるパークスクエア・バス通り沿線地域では、「電気・ガス・水道事業」「建設業」「運輸業」「不動産業」「学術研究、専門・技術サービス業」「金融業」の事務所の多くが集積しているとともに、鳥取県中部総合事務所、文化交流複合施設「パークスクエア」などの公共的機能が存在しており、中部圏域における中心的な機能を果たしている。

これらの区域は、人口の集積、事業所の集積、各種の都市機能の立地等の面において、倉吉市の中心であり、また各地区は相互に補完的に機能しながら倉吉市の経済社会活動をけん引する機能を果たしている。

(区域図)



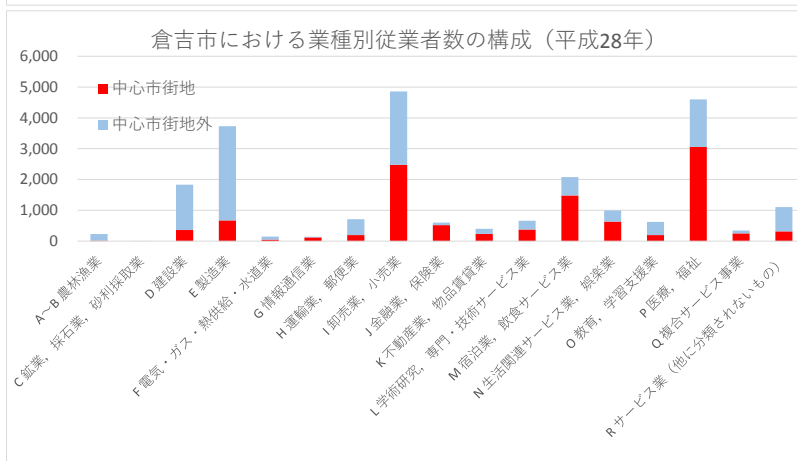
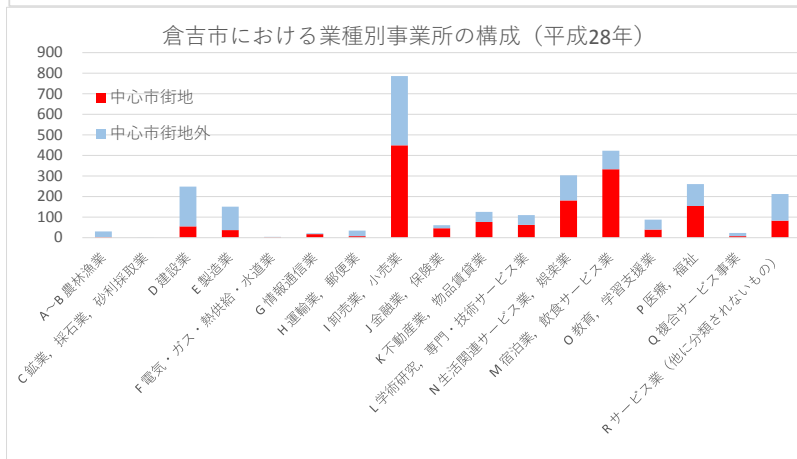
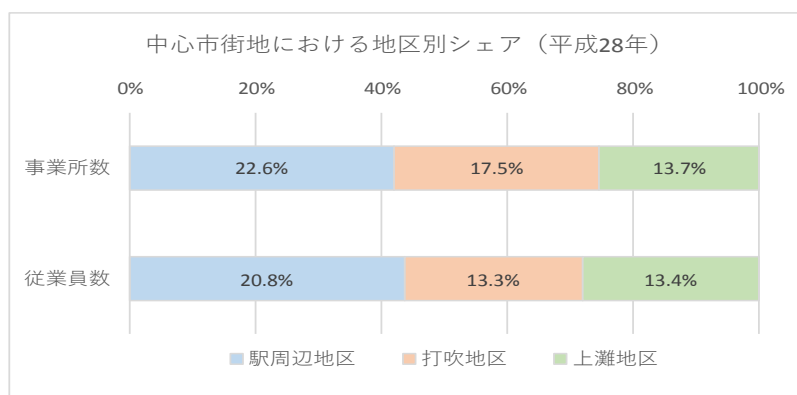
[3] 中心市街地要件に適合していることの説明

要 件	説 明																																																																																																										
<p>第1号要件</p> <p>当該市街地に、相当数の小売商業者が集積し、及び都市機能が相当程度集積しており、その存在している市町村の中心としての役割を果たしている市街地であること</p>	<p>(1) 小売業の集積</p> <p>中心市街地は、倉吉市の中で小売業が高密度に集積している場所である。倉吉市全体に占めるシェアは概ね横ばい傾向を示しており、倉吉市の面積（272.06 k㎡）のわずか0.7%程度に過ぎない中心市街地に小売店舗の従業者数、商品販売額、売場面積の概ね25%以上が集積し、事業所数は35%を超えている。</p> <p>中心市街地を構成する3つの地区についてみると、事業所数については打吹地区、従業者数、商品販売額、売場面積では駅周辺地区に重心が置かれた集積状況となっている。</p> <p>■小売業（H19）および卸売業・小売業（H21-28）集積状況の推移</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">小売業 (商業統計調査) 平成19年</th> <th colspan="4">卸売・小売業 (経済センサス調査)</th> </tr> <tr> <th>21年</th> <th>24年</th> <th>26年</th> <th>28年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">事業所数 (店)</td> <td>倉吉市</td> <td>776</td> <td>889</td> <td>835</td> <td>802</td> <td>786</td> </tr> <tr> <td>中心市街地</td> <td>281</td> <td>308</td> <td>295</td> <td>452</td> <td>477</td> </tr> <tr> <td>シェア</td> <td>36.2%</td> <td>34.6%</td> <td>35.3%</td> <td>56.4%</td> <td>60.7%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">従業者数 (人)</td> <td>倉吉市</td> <td>4,182</td> <td>5,368</td> <td>4,893</td> <td>4,907</td> <td>4,855</td> </tr> <tr> <td>中心市街地</td> <td>1,206</td> <td>1,555</td> <td>1,317</td> <td>1,027</td> <td>1,156</td> </tr> <tr> <td>シェア</td> <td>28.8%</td> <td>29.0%</td> <td>26.9%</td> <td>20.9%</td> <td>23.8%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">年間商品販売額 (百万円)</td> <td>倉吉市</td> <td>69,166</td> <td>-</td> <td>90,186</td> <td>96,196</td> <td>103,559</td> </tr> <tr> <td>中心市街地</td> <td>17,397</td> <td>-</td> <td>12,156</td> <td>38,231</td> <td>40,411</td> </tr> <tr> <td>シェア</td> <td>25.2%</td> <td>-</td> <td>13.5%</td> <td>39.7%</td> <td>39.0%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">売場面積 (㎡)</td> <td>倉吉市</td> <td>97,511</td> <td>-</td> <td>84,274</td> <td>84,160</td> <td>79,711</td> </tr> <tr> <td>中心市街地</td> <td>26,953</td> <td>-</td> <td>18,824</td> <td>48,495</td> <td>44,525</td> </tr> <tr> <td>シェア</td> <td>27.6%</td> <td>-</td> <td>22.3%</td> <td>57.6%</td> <td>55.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">中心市街地における地区別シェア（平成28年）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>倉吉駅周辺地区</th> <th>打吹地区</th> <th>上灘地区</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>売場面積</td> <td>33.3%</td> <td>19.8%</td> <td>46.9%</td> </tr> <tr> <td>年間商品販売額</td> <td>36.8%</td> <td>25.3%</td> <td>37.8%</td> </tr> <tr> <td>従業者</td> <td>46.8%</td> <td>23.4%</td> <td>29.8%</td> </tr> <tr> <td>事業所</td> <td>31.4%</td> <td>41.1%</td> <td>27.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;">注) 中心市街地地域の割合に応じて算出</p>	区分	小売業 (商業統計調査) 平成19年	卸売・小売業 (経済センサス調査)				21年	24年	26年	28年	事業所数 (店)	倉吉市	776	889	835	802	786	中心市街地	281	308	295	452	477	シェア	36.2%	34.6%	35.3%	56.4%	60.7%	従業者数 (人)	倉吉市	4,182	5,368	4,893	4,907	4,855	中心市街地	1,206	1,555	1,317	1,027	1,156	シェア	28.8%	29.0%	26.9%	20.9%	23.8%	年間商品販売額 (百万円)	倉吉市	69,166	-	90,186	96,196	103,559	中心市街地	17,397	-	12,156	38,231	40,411	シェア	25.2%	-	13.5%	39.7%	39.0%	売場面積 (㎡)	倉吉市	97,511	-	84,274	84,160	79,711	中心市街地	26,953	-	18,824	48,495	44,525	シェア	27.6%	-	22.3%	57.6%	55.9%	指標	倉吉駅周辺地区	打吹地区	上灘地区	売場面積	33.3%	19.8%	46.9%	年間商品販売額	36.8%	25.3%	37.8%	従業者	46.8%	23.4%	29.8%	事業所	31.4%	41.1%	27.5%
区分	小売業 (商業統計調査) 平成19年			卸売・小売業 (経済センサス調査)																																																																																																							
		21年	24年	26年	28年																																																																																																						
事業所数 (店)	倉吉市	776	889	835	802	786																																																																																																					
	中心市街地	281	308	295	452	477																																																																																																					
	シェア	36.2%	34.6%	35.3%	56.4%	60.7%																																																																																																					
従業者数 (人)	倉吉市	4,182	5,368	4,893	4,907	4,855																																																																																																					
	中心市街地	1,206	1,555	1,317	1,027	1,156																																																																																																					
	シェア	28.8%	29.0%	26.9%	20.9%	23.8%																																																																																																					
年間商品販売額 (百万円)	倉吉市	69,166	-	90,186	96,196	103,559																																																																																																					
	中心市街地	17,397	-	12,156	38,231	40,411																																																																																																					
	シェア	25.2%	-	13.5%	39.7%	39.0%																																																																																																					
売場面積 (㎡)	倉吉市	97,511	-	84,274	84,160	79,711																																																																																																					
	中心市街地	26,953	-	18,824	48,495	44,525																																																																																																					
	シェア	27.6%	-	22.3%	57.6%	55.9%																																																																																																					
指標	倉吉駅周辺地区	打吹地区	上灘地区																																																																																																								
売場面積	33.3%	19.8%	46.9%																																																																																																								
年間商品販売額	36.8%	25.3%	37.8%																																																																																																								
従業者	46.8%	23.4%	29.8%																																																																																																								
事業所	31.4%	41.1%	27.5%																																																																																																								

(2) 各種事業所の集積

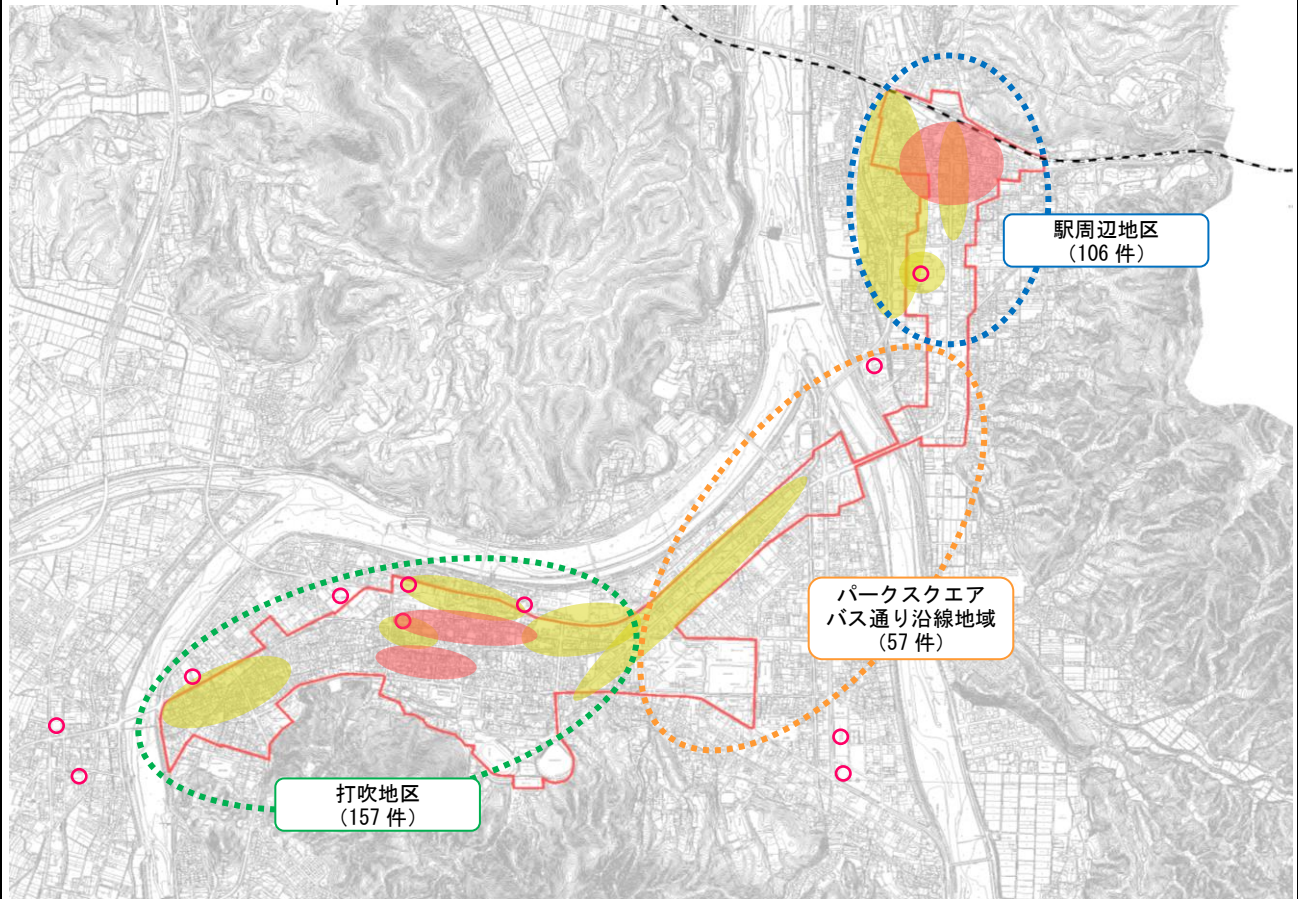
中心市街地には、倉吉市の総事業所および従業者の半数が集積している。業種別に見ると、卸売業・小売業が最も多いが、従業者では医療・福祉が多い。中心市街地の構成比を見ると、事業所では宿泊業・飲食サービス業、金融業・保険業および情報通信業等の都市型産業における中心市街地の割合が高く、従業者では、加えて医療・福祉における割合が高くなっている。

区分		平成24年	26年	28年
事業所数	倉吉市	2,973	3,123	2,881
	中心市街地	1,591	1,593	1,551
	構成比(%)	53.5%	51.0%	53.8%
従業者数	倉吉市	23,926	26,939	23,078
	中心市街地	11,743	11,435	10,972
	構成比(%)	49.1%	42.4%	47.5%



出典：経済センサス

■ 中心市街地周辺の商業集積地区及び大規模小売店舗の立地状況



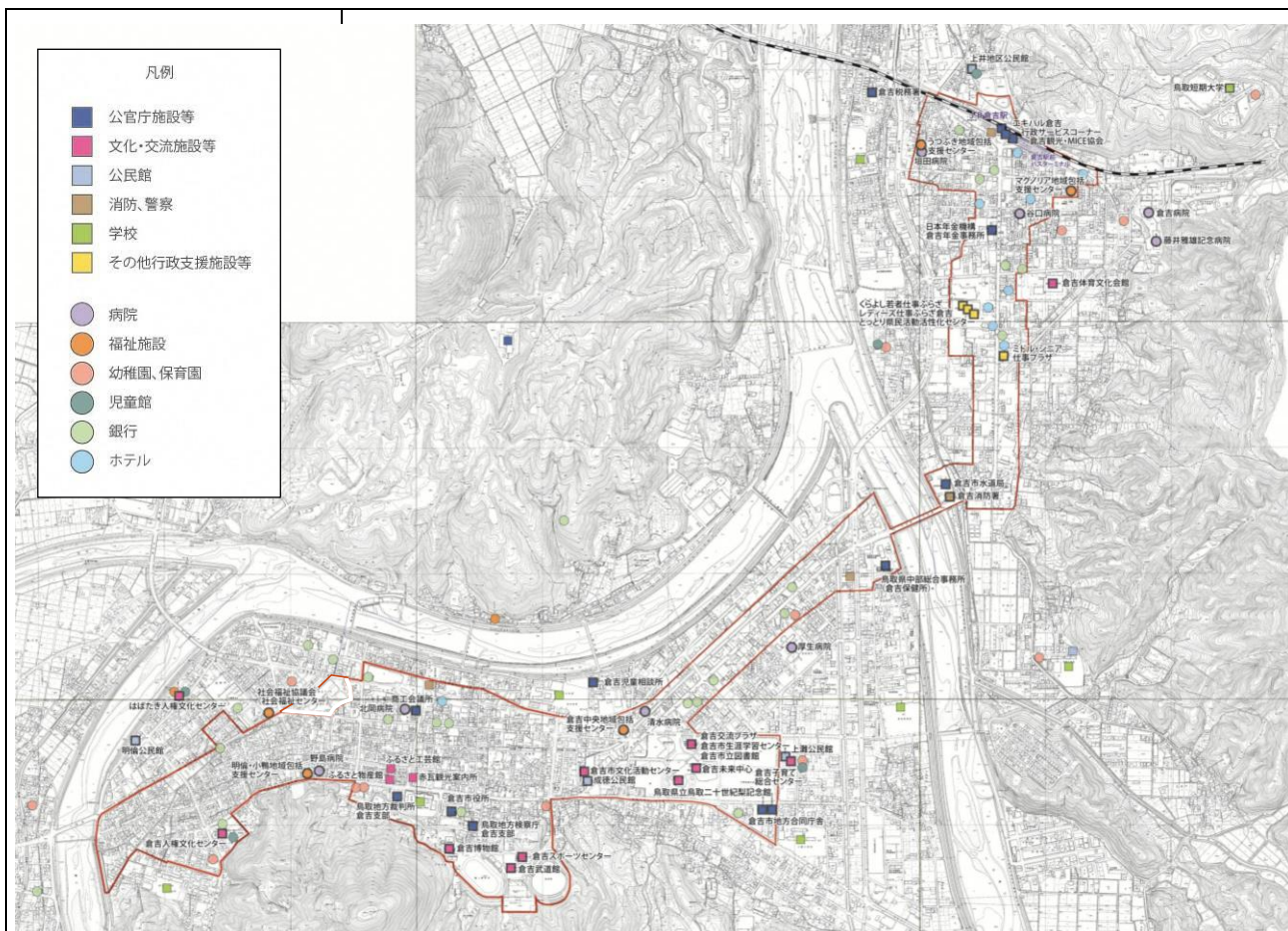
(3) 都市機能の集積状況

行政機関等の公共施設、病院や子育て支援施設等の医療・福祉施設、文化・スポーツ施設、教育施設等、各種の公共公益機能が中心市街地に集積していることに加え、金融機関やホテルなど、都市の中心性を示す指標ともみられる民間施設に関しても、高い集積がみられる状況にある。

駅周辺地区は、交通の拠点であるJR倉吉駅の改良と一体に交流ホールや観光案内所、行政サービスコーナーなどが一体化された複合公共施設「エキパル倉吉」が整備されたことにより、鳥取県中部地域の中心都市・倉吉の広域的な玄関口としての役割を果たしているとともに、複合商業施設「パープルタウン」の施設内やその周辺に複数の公共的機関が集積するほか、ホテル、商業施設、飲食店等が集積している。

一方、打吹地区は長い歴史の中から発展し、市役所等の行政機関、文化・スポーツ施設等の公共公益施設が多数集積していることに加えて、伝統的建造物群等の歴史的な資源をいかした観光施設等が数多く集積しているなど、駅周辺地区とは異なる役割を果たしている。

また、両地区をつなぐ地域であるパークスクエア・バス通り沿線地域では、地方公共団体である鳥取県の中部の出先機関である中部総合事務所や、市立図書館、二十世紀梨記念館、交流施設等で構成される文化交流複合施設「パークスクエア」が存在している。



(4) 交通の状況

J R倉吉駅と多数の路線バスや長距離バスが乗り入れるバス交通の拠点が一体化した交通結節点を擁する。倉吉市内では多数の路線でバスが運行されており、特に倉吉駅から打吹地区の間は路線が集中している。これにより、中心市街地内では日中でも5～10分の間隔でバスが運行されるなど、公共交通の利便性は高い。

倉吉駅から西倉吉までの中心市街地を通る路線は17路線、上下線合わせて約300本のバスが運行されており、自動車利用が移動の中心を占める倉吉市においても、交通手段としてバス交通が一定の役割を果たしている。



路線名	本数			路線名	本数		
	上り	下り	計		上り	下り	計
1 関金線	21	20	41	10 橋津線	17	16	33
2 パークスクエア線	6	6	12	11 松崎線	7	7	14
3 市内線	4	3	7	12 赤碕線	12	12	24
4 広瀬線	8	8	16	13 上井・三朝線	19	17	36
5 高城線	7	8	15	14 三朝線	11	13	24
6 北谷線	6	5	11	15 穴鴨線	5	5	10
7 社線	10	10	20	16 小河内線	1	1	2
8 栄線	3	4	7	17 横田線	3	3	6
9 北条線	9	9	18	合計	149	147	296

■拠点的な複数の地区によって形成される一体的な中心市街地

中心市街地を形成する3つの地区のうち、駅周辺地区と打吹地区は、人口分布や事業所の立地等において、ともに倉吉市の中で際立った集積を形成している。

駅周辺地区は、JR倉吉駅と多数の路線バスや長距離バスが乗り入れるバス交通の拠点が一体化した交通結節点を擁する。JR倉吉駅は駅の改良と一体に交流ホールや観光案内所、行政サービスコーナーなどが一体化された複合公共施設「エキバル倉吉」が整備されたことにより、鳥取県中部地域の中心都市・倉吉の広域的な玄関口としての役割を果たしている。周辺には、バス路線と直結した商業施設「パープルタウン」が立地し、自らが運転して自家用車を利用することが難しい高齢者の生活を支える利便性の高い商業施設として利用されている他、ホテルや飲食店等、市民の日常を支える都市機能が集積している。また大規模な病院や、大学等の文教施設等もその周辺に立地している。

他方、打吹地区は歴史的に鳥取県中部エリアの拠点として発展し、市役所等の行政機関、文化・スポーツ施設等の公共公益施設が多数集積している。加えて、伝統的建造物群等の歴史的な資源をいかした観光施設等が数多く集積しているなど、駅周辺地区とは異なる性格の中心としての役割を果たしている。

また、倉吉駅周辺地区と打吹地区の間をつなぐ地域であるパークスクエア・バス通り沿線地域には、図書館や記念館、交流施設等で構成される大規模な文化複合施設「パークスクエア」が立地し、倉吉市の中心となる文化施設等の集積が見られる。

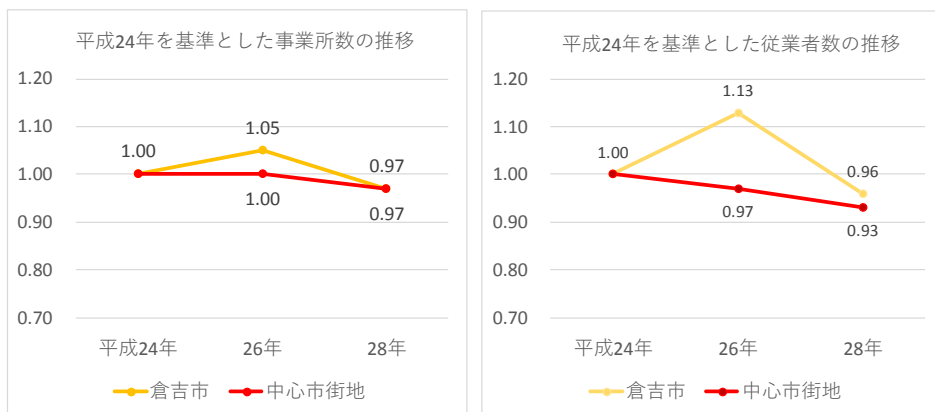
このように、拠点となる駅周辺地区と打吹地区の二地区を含んだ3つの地区で構成される中心市街地では、性格の異なる地区がそれぞれに機能しつつも、相互に機能を補完しながら中心市街地としての機能を果たしている。

第2号要件

当該市街地の土地利用及び商業活動の状況等からみて、機能的な都市活動の確保又は経済活力の維持に支障を生じ、又は生ずるおそれがあると認められる市街地であること

○中心市街地の事業所数および従業者数の推移

平成24年を基準とした事業所数の推移は、26年に増加し、28年に減少に転じているが、倉吉市全体の減少率に対して中心市街地の減少傾向は緩やかになっている。また、倉吉市全体の従業者数は事業所数と同様の推移となっているが、中心市街地は減少が顕著にみられる。

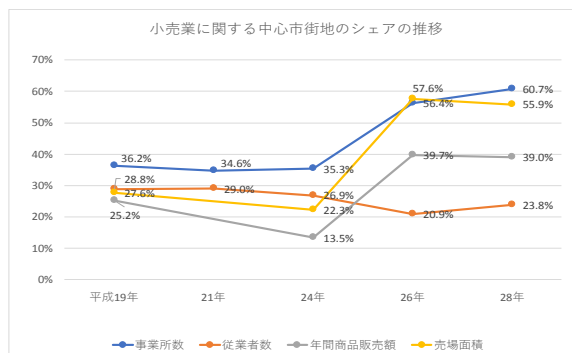


出典：経済センサス

○小売業における中心市街地のシェアの推移

市全体に対する中心市街地の主要商業集積地区のシェアは横ばいまたは増加傾向となっており、平成19年から平成28年の10年で、事業所数、年間商品販売額はともに増加している。ただし、近年の状況をみると、年間商品販売額、売場面積が減少していることから、中心市街地の小売業の弱体化の傾向がみられる。

区分		小売業 (商業統計調査)		卸売・小売業 (経済センサス調査)		
		平成19年	21年	24年	26年	28年
事業所数 (店)	倉吉市	776	889	835	802	786
	中心市街地	281	308	295	452	477
	シェア	36.2%	34.6%	35.3%	56.4%	60.7%
従業者数 (人)	倉吉市	4,182	5,368	4,893	4,907	4,855
	中心市街地	1,206	1,555	1,317	1,027	1,156
	シェア	28.8%	29.0%	26.9%	20.9%	23.8%
年間商品販売額 (百万円)	倉吉市	69,166	-	90,186	96,196	103,559
	中心市街地	17,397	-	12,156	38,231	40,411
	シェア	25.2%	-	13.5%	39.7%	39.0%
売場面積 (㎡)	倉吉市	97,511	-	84,274	84,160	79,711
	中心市街地	26,953	-	18,824	48,495	44,525
	シェア	27.6%	-	22.3%	57.6%	55.9%



出典：商業統計、経済センサス

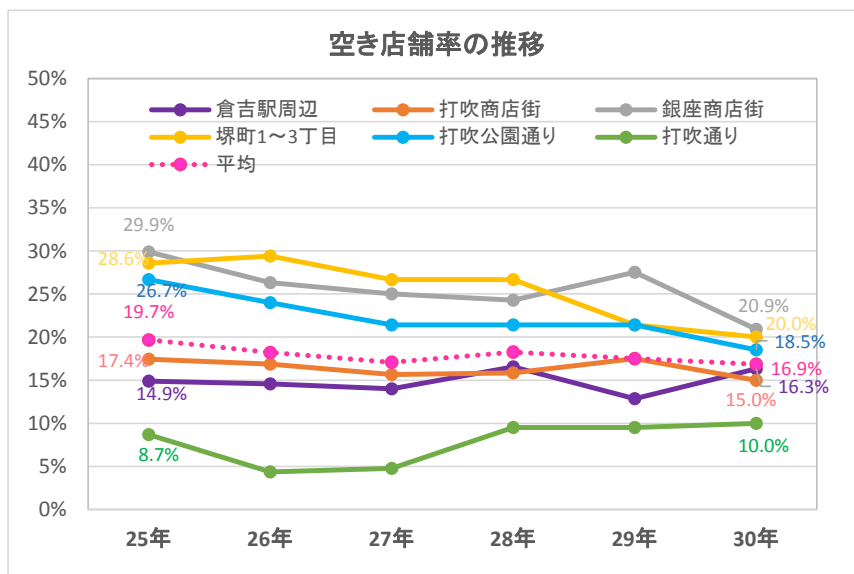
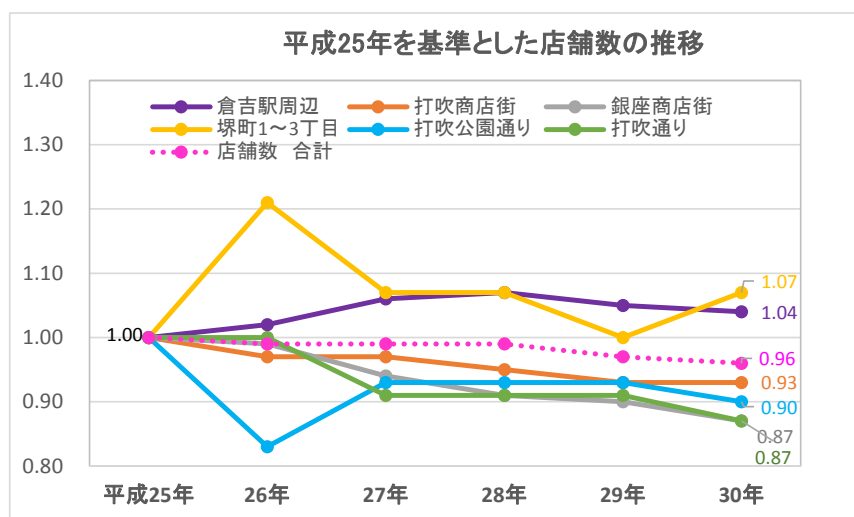
○店舗数と空き店舗率の推移

平成25年を基準とした店舗数の推移をみると、全体的には比較的軽微な減少となってきている。

しかし、近年の空き店舗率の推移をみると、全体的には17%を示しているものの、なかには、20%を超える地区があるなど、商業集積の低下がうかがえる地区もみられる。

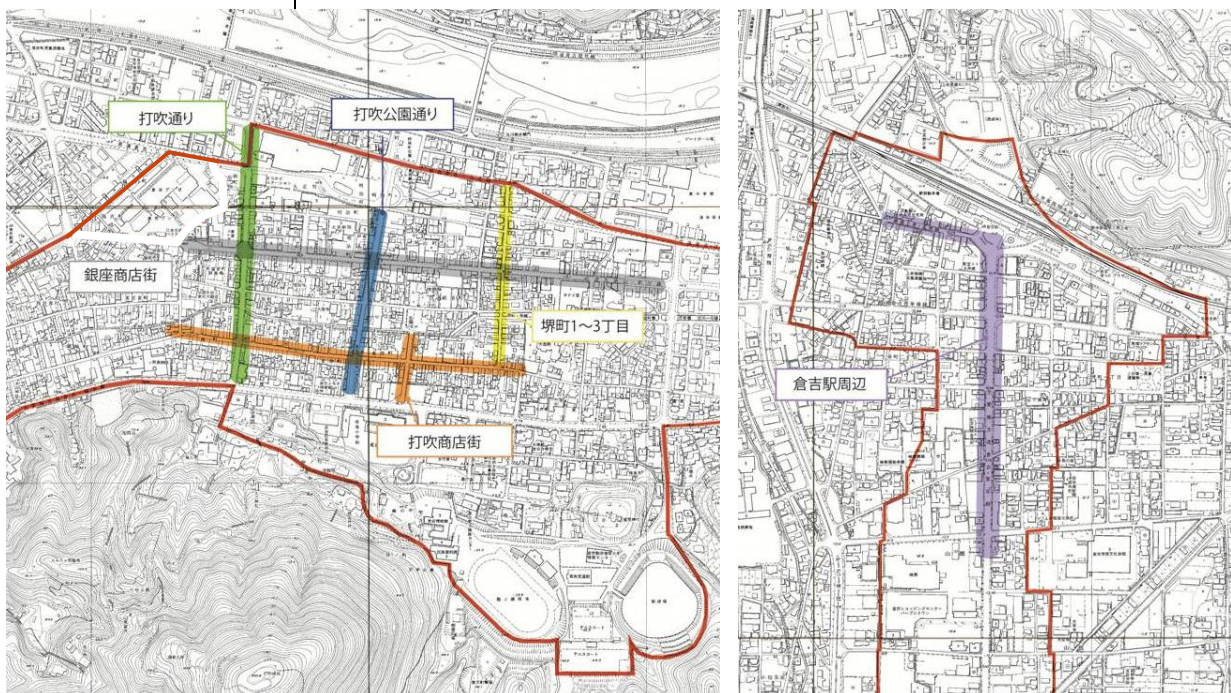
■店舗総数（実数）

区分	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
倉吉駅周辺	141	144	150	151	148	147
打吹商店街	86	83	83	82	80	80
銀座商店街	77	76	72	70	69	67
塚町1～3丁目	14	17	15	15	14	15
打吹公園通り	30	25	28	28	28	27
打吹通り	23	23	21	21	21	20
店舗数 合計	371	368	369	367	360	356



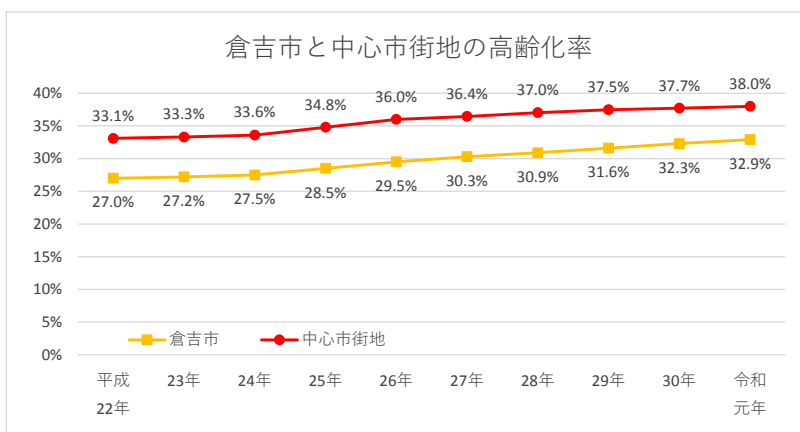
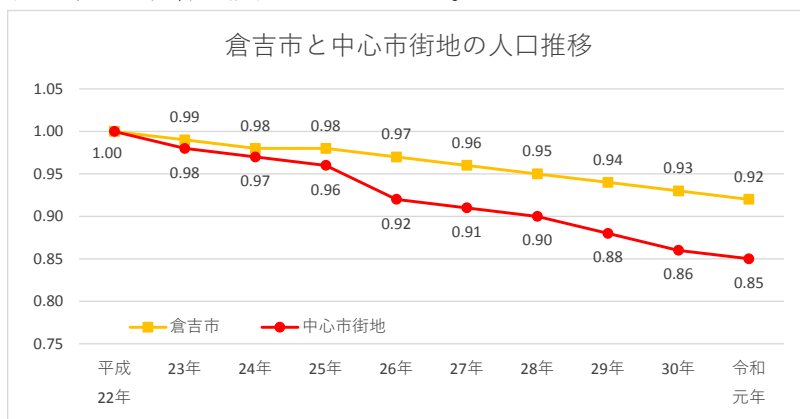
出典：倉吉市 平成30年度空店舗調査

■空き店舗調査実施図（商店街および商業集積のある主要な通り）



○人口減少、高齢化の状況

平成 22 年を基準にした人口の推移をみると、倉吉市の人口減少傾向より中心市街地の減少傾向は著しく、令和元年では、倉吉市の 8%の減少幅に対して、中心市街地では倍近い 15%の人口減少が起こっている。また高齢化率も中心市街地の高齢化率は約 38%と人口減少と同様に倉吉市に対して顕著な傾向となっている。



■倉吉市および中心市街地の人口（実数）と高齢化率

区分	倉吉市		中心市街地	
	総人口	高齢化率	総人口	高齢化率
平成22年	51,331人	27.0%	7,166人	33.1%
23年	50,846人	27.2%	7,052人	33.3%
24年	50,458人	27.5%	6,953人	33.6%
25年	50,080人	28.5%	6,853人	34.8%
26年	49,638人	29.5%	6,587人	36.0%
27年	49,248人	30.3%	6,489人	36.4%
28年	48,852人	30.9%	6,416人	37.0%
29年	48,270人	31.6%	6,312人	37.5%
30年	47,722人	32.3%	6,193人	37.7%
令和元年	47,199人	32.9%	6,072人	38.0%

出典：住民基本台帳（各年1月）

第3号要件

当該市街地における都市機能の増進及び経済活力の向上と総合的かつ一体的に推進することが、当該市街地の存在する市町村及びその周辺の地域の発展にとって有効かつ適切であると認められること

(1) 上位計画における位置づけ

○倉吉市総合計画（平成23年3月）

第11次倉吉市総合計画においては、倉吉駅周辺地区や、打吹・上灘地区は「中心拠点」に位置付けられている。

基本目標4の「安全・安心で快適に暮らせるまち」では、「だれもが愛着を感じ、住み続けたいと思えるまちをつくる」を方針の一つとし、「にぎわいのあるまちなかを再生する」という施策を掲げ、「買い物客はもとより、観光客を含めた来訪者がたびたび訪れてみたくなるような、歩いて楽しい快適で魅力的な街並みが形成されているとともに、たくさんの人たちが行き交い、交流を深める場として、活気とにぎわいのある中心市街地となっています。」と中心拠点地区の目指すべき姿を示している。

また、計画では地域資源のブランド力の向上による産業の活発化、地域主体のまちづくりの展開、歴史や文化の保全、快適で安全な生活環境の整備などの目標を進めることとしている。また、分野横断的な戦略プロジェクトでは定住の促進を目指し、若者や子育て世帯、高齢者が住み続けたいまちづくりを進めることとしている。さらに、基本姿勢としては、持続可能な地域社会の確立のため、重要性や緊急性などによりまちづくりを行う「選択と集中を基調としたまちづくり」が掲げられている。



○倉吉市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27年10月）

平成27年10月に策定した倉吉市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、基本目標に「人を大事にし、志を育てる」「仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ」「地域を守り、地域の資源を活力に変える」を掲げており、具体的な施策、重要業績指標（KPI）を以下のとおり設定している。

<基本目標Ⅰ> 人を大事にし、志を育てる

具体的な施策

- ア. 子育て世代の負担軽減など、安心した子育て環境の提供
- イ. 出会いの機会を強化し、子どもを持つ喜びを感じられる取組みを推進
- ウ. 移住希望者へ魅力を伝え、あたたかく迎え入れる体制を推進
- エ. 子どもたちがどこに行っても自慢したくなる、倉吉の愛着と誇りづくりを推進
- オ. 自ら志を持ち、アイデアを実現し地域に貢献できる人財教育
- カ. 女性が地域や職場で活躍できる環境づくりの推進
- キ. 退職後からの活躍の場づくりによる地域の担い手と活力に貢献

K P I

- ①合計特殊出生率 1.75(H25) ⇒ 1.79(H31)
- ②県内外からの移住者 147人(H26) ⇒ 200人(H31)

<基本目標Ⅱ> 仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ

具体的な施策

- ア. 安定した雇用基盤の整備
- イ. 80歳まで稼げる農林水産業の推進
- ウ. にぎわい創出と観光業の振興

K P I

- ①企業誘致及び規模拡大による新規雇用者数 153人(H26)
⇒ 300人(H31【累計】)
- ②中部1市4町観光客入込客数 2,128,000人(H26)
⇒ 2,200,000人(H31)

<基本目標Ⅲ> 地域を守り、地域の資源を活力に変える

具体的な施策

- ア. 人が集い魅力ある地域づくり
- イ. 地元大学生の力による賑わいづくりと地域づくり
- ウ. 高齢になっても障がいがあっても安心して健康でいきいき活躍できる環境づくり

K P I

- ①「市民提案型協働プロジェクト」事業の取組地区数 1 地区(H26) ⇒ 13 地区(H31)
- ②自主防災組織の組織率 74.7% (H26) ⇒ 100.0%(H31))
- ③「まちの保健室」取組地区数 2 地区 (H27) ⇒ 13 地区(H31)

○倉吉都市計画マスタープラン（平成 30 年 2 月）

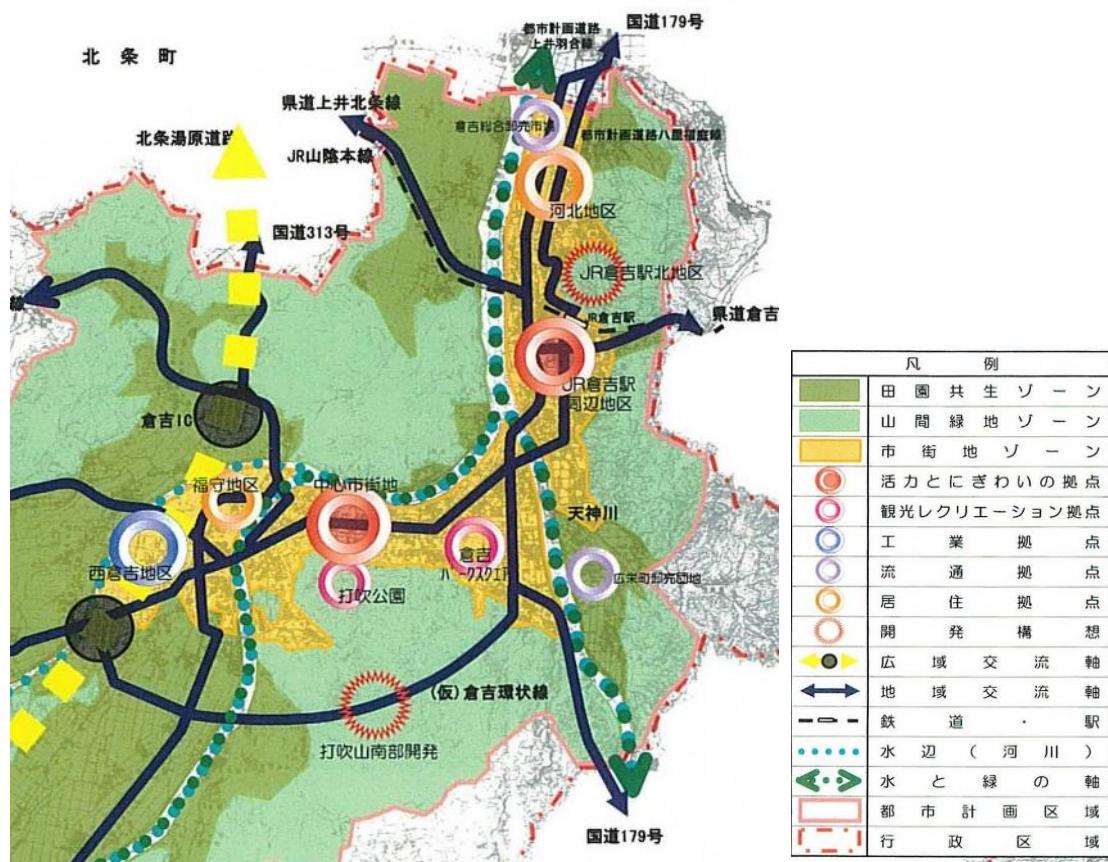
都市計画マスタープランにおいて中心市街地は市街地ゾーンに位置付けられ、都市構造の5つの拠点のうち「中心拠点」に位置づけられている。

「河北地域」に位置づけられている倉吉駅周辺地区は、「人が行き交うまちづくり」を目標とし、倉吉駅周辺を中心に誰もが容易にアクセスでき、人が行き交うにぎわいのあるまちを目指すとともに、落ちついた雰囲気のある居住環境を守るとともに、交流拠点にふさわしい商業集積の計画的な誘導を図ることとしている。また「中央地域」に位置づけられている打吹地区からパークスクエアを含む地域は、「懐かしさと季節を感じるまちづくり」を目標とし、日常生活が地域内で完結する生活空間の形成を目指すとともに、打吹玉川地区の白壁土蔵群や民家の街なみを活かした観光まちづくりの推進、季節ごとに変化をみせる打吹山の自然や景観を活かした「緑の環境」づくりを進めることとしている。



○倉吉都市計画区域 都市計画区域マスタープラン（平成 30 年 2 月）

倉吉都市計画区域都市計画区域マスタープランにおいて、中心市街地は市街地ゾーンに位置し、駅周辺地区と打吹地区は、6つの拠点のうち「活力とにぎわいの拠点」に位置づけられ、倉吉パークスクエアは「観光レクリエーション拠点」に位置付けられている。2つの拠点を核として、地域特性を活かし、都市基盤の整備を促進することにより、土地の有効・高度利用を図りつつ、魅力ある商業地の形成を図ることが進められている。打吹地区は、歴史的資源を活かした商業環境を整備する地区、駅周辺地区は集積機能、施設との連携の充実化を図るとともに、県内外に情報を発信する拠点として機能の拡充、環境整備を重点的に図る地区と位置づけられている。



○定住自立圏構想／中心市宣言（平成 21 年 3 月）、鳥取県中部定住自立圏共生ビジョン（平成 27 年 3 月）

鳥取県中部圏域は、中心的な役割を担う本市とその周辺にある4町（三朝町、湯梨浜町、琴浦町、北栄町）で構成されており、県内では、コンパクトな自立圏域を目指す「小規模中心型」に位置付けられている。本圏域は、1市4町で定住自立圏を形成し、互いに役割分担・連携を行いながら、定住自立圏の圏域全体で人口の「定住」に必要な都市機能と生活機能を確保するとともに、圏域の地域資源を有効に活用して、「自立」に必要な経済基盤を培い、圏域全体の魅力の向上と活性化を図ることに

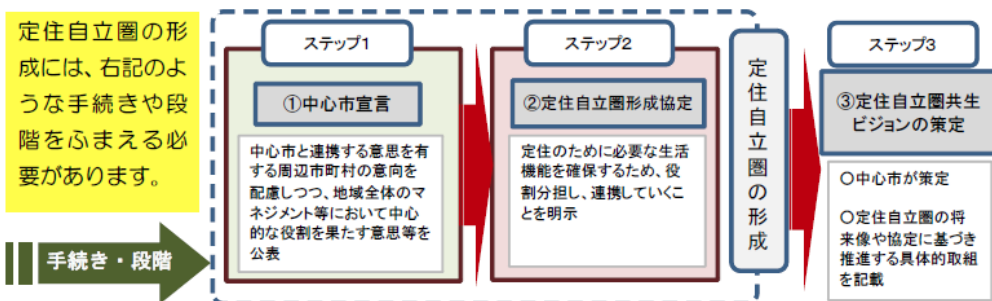
より、圏域における定住を促進し、持続可能な圏域社会を構築することを目的としている。

定住自立圏構想における本市の中心市宣言では、「定住自立圏の形成を目指す中心市として定住自立圏の構築を掲げ、近接する4町を始め、人口定住のため連携する意思を有する自治体などとともに、結び付きと機能の強化により関係を緊密にし、共通課題の解決を図り、地域全体の維持・発展に向け、さらに積極的な各種サービスを提供していくことにより、安心して暮らせる圏域の形成、均衡ある発展と一体化を目指す」と宣言されている。

また、定住自立圏共生ビジョンでは、生活機能の強化、結びつきやネットワークの強化、圏域マネジメント能力の強化を視点とし、「暮らし良さ(住み続けたくなる要素)」を感じられる生活基盤の整備と地域資源の連携・活力による「魅力(住みたくなる要素)」の創出により、定住の促進を図るとしている。



■定住自立圏の形成に係る手続きの流れ



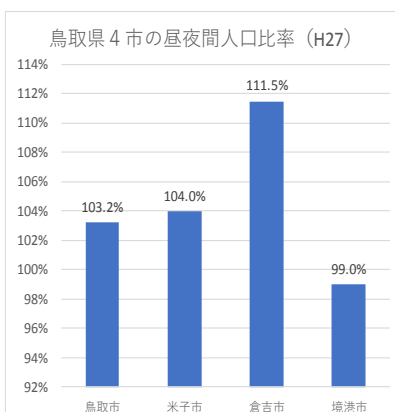
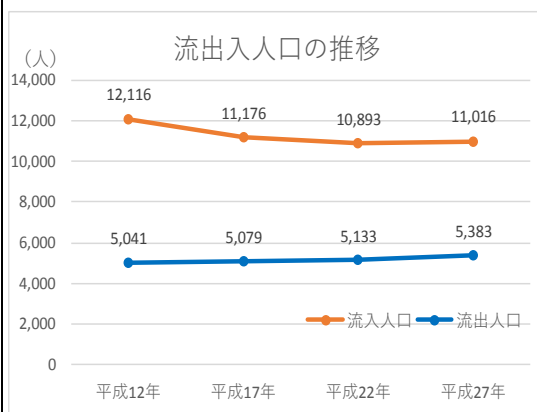
(2) 周辺市町村への波及効果

倉吉市への周辺地域から計約 1.1 万人の通勤・通学者が流入しており、昼夜間人口比率は 111.5%と流入超となっている。市外からの流入人口は総従業者・通学者の 3 割以上を占めており、特に通学者の 4 割以上が市外からの流入者となり、若者の流入が多くなっている。

市外からの流入人口のうち、最も多いのは湯梨浜町で近隣 4 町からの流入が多いが、鳥取市や岡山県、島根県の他都市からの流入も見られ、広域的な吸引力を有していることから、活性化による周辺市町村への波及効果も大きいと考えられる。

区分	夜間人口 (人)	流出人口 (人)	昼間人口 (人)	流入人口 (人)	昼夜間 人口比率
平成12年	49,681	5,041	56,756	12,116	114.2%
17年	52,579	5,079	58,676	11,176	111.6%
22年	50,720	5,133	56,480	10,893	111.4%
27年	49,044	5,383	54,677	11,016	111.5%

注釈：昼夜間人口比率＝（昼間人口／常住人口）×100



出典：国勢調査

平成 27 年の就業者・通学者の流入割合（15 歳以上） ※不詳は含まず

区分			就業者	通学者	合計
市内			66.2%	56.2%	65.2%
市外	県内 他都市	三朝町	4.2%	4.2%	4.2%
		湯梨浜町	10.3%	11.4%	10.4%
		北栄町	4.4%	7.6%	4.7%
		琴浦町	8.2%	8.4%	8.2%
		鳥取市	4.0%	6.2%	4.2%
		その他の県内他都市	1.8%	4.5%	2.1%
		計			
	県外	岡山県	0.5%	0.0%	0.5%
		島根県	0.2%	1.1%	0.3%
		その他の他県	0.2%	0.4%	0.2%
計			33.8%	43.8%	34.8%
流入合計			100.0%	100.0%	100.0%

出典：国勢調査